



聖化によるリバイバル

◆第13回東京大会実行委員長
チャーチ・オブ・ゴッド瀬谷グレース・チャペル牧師

伊藤 昭吉

第十三回関東聖化大会に本誌読者の諸師、諸兄弟をお招きできることを嬉しく存じます。

今回の会場は昨年と同じで、日本におけるホーリネス諸派の発祥の地である神田神保町に近い「日本教育会館一ツ橋ホール」です。今大会の理念は、「主よ。このもろもろの年

の間に汝のわざをいさ働かせたまえ」(ハバクク三章二節)のみことばに導かれて「聖化によるリバイバルの幻」とさせて頂きました。「リバイバル」という言葉が叫ばれて久しくなります。その目指す目標も達成しようとする方法も多様です。私はそうした運動のあれこれを論じて批判するつもりはありません。しかし、聖書が教えるリバイバルは「聖化」すなわちホーリネスと無関係で起り得ないと確信しています。

今回の主講師ハーバート・マゴニ

ガル博士はマンチェスター・ナザレン神学大学の学長としての激務のかわら、教会史とウエスレーについての講座を担当しております。ウエスレーが生涯をかけて追求した聖書のホーリネスの宣証のために各地で用いられている神の器です。

邦人講師は、日本ナザレン神学校の教授である坂本誠師がセミナーで講じて下さいます。坂本師の今回の演題は、「ウエスレーの聖餐論」です。今回からただ講演を聞くだけでなく、講演に対してレスポンスを立てて内容のある質疑応答のときを持つことになっていきます。そのレスポンスを藤本満師が担当してくださいます。実に有益で実りのある講演になることと確信しております。夜の聖会第一夜に日本ホーリネス教団、横浜教会の尾花晃先生からお証詞を伺うことになっております。

聖化大会が霊的な深みの面、神学的な確かさの面、そして私たちの生涯を通して生きて働く実質的な恩寵であることを知るためにも尾花晃先生のお証詞に耳を傾けたいと思います。聖化大会は今回で十三回目を迎えます。ここまでこの働きを続けて来ることができたことは、ただ神様の恵みによることと、この働きのために折り、献げ、そして出席をもつて支えてくださった諸先生方をはじめ主にある愛兄弟の熱い信仰のゆえに感謝しております。とりわけ例年、各神学校の神学生愛兄弟の愛労には感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

今回の聖化大会にも多くの同信の諸先生方、諸兄弟の皆様方がご出席されるようにとお祈り致しております。



ハーバート・マゴニガル博士

先生は、北アイルランドのインニスキーレンに、一九三九年にお生まれになりました。リーズ大学で文学修士号、ロンドン大学で神学修士号、シカゴ・ナザレン大学では神学博士号を、そしてウエスレーの研究によりキール大学から哲学博士号を得られた一流の学究です。

ナザレン教団の教職としてロンドン、グラスゴー、リーズの各地で伝道教会のあと、マンチエスター・ナザレン神学大学で旧約学を教え、一九八六年以降、学長として激務の中で数会史とウエスレーについての講座を担当しておられます。また、世界各地に支部を持つ、ウエスレークラブの会長として、ウエスレーが生涯をかけた聖書のホーリネスの宣証のために身を挺しておられます。学問と敬虔が見事にブレンドされている上に、明確な聖潔のメッセージを、燃えるような熱情をもって、明快に語られます。

先年、セント・アンドリュース大

学の創立記念祭の主講師として招かれただけでなく、欧州大陸にまで奉仕の翼が広がっております。マンチエスター・ナザレン神学大学は、かのマンチエスター大学と提携、DPUを含むあらゆる学位を授与出来るまでになっており、あまねく世界に門戸を開いて「聖化」の学的研鑽の場を提供しております。

先生は、気さくで実に思いやりの深い方ですから交友関係も広く、例えば今は故人となられた碩学F・F・ブルース博士なども、しばしば先生の書齋に姿を見せられたそうです。この度は、ご夫妻にとつて三度目の来日ですが、初回の塩屋聖会も二度目のバックストン聖会にも、期待にたがわず、神は先生を通して祝福の雨を豊かに降らせて下さいました。日本にリバイバルをといて切なる祈りと共に、神からの霊の重荷を携えて来日されます。北は札幌から南は福岡まで、六ヶ所に亘る聖会において、リバイバルの火を私達の心に投じてくださいます。

主 講 師 の 著 書 紹 介 (邦訳済)



この書物は、第60回塩屋聖会（一九九四年）における日・マゴニガル博士の四回にわたるメッセージが記されています。その中の一つである「まことのペンテコステの恵み」のメッセージとして次のようなことが記されています。

「…皆さん、この偉大な祝福である聖霊が訪れて下さった時には、私たちはそれが本当に起こったのかを疑う余地がありません。神様は私たちに何が起こったのかということを知らせて下さるのです。それが起こったと私たちが確信できるようにして下さいます。神様はそのようなことが起きた証と証を与えて下さるのです。それは聖霊の内なる証、聖霊が私たちの内において聖霊ご自身について証明して下さいます。神様がある人を聖霊で満たして下さいます時、その人は聖霊が来て下さったとわかります。聖霊が全き満たしをもって私たちに来て下さった時に、それが起こったと自分に言い聞かせる必要はまったくありません。……」（四二頁より引用）是非ご購読を！（バックストン記念聖会委員会発行、一九九五年十一月二〇日初版）



右述のものに続くマゴニガル博士のホーリネス・メッセージの第二集です。第61回塩屋聖会と第36回バックストン記念聖会（ともに一九九五年開催）で語られたものが掲載されています。その中で「神の人」と題されたメッセージがあります。その中で、エリシヤが取り上げられ「神の聖なる人」とは、いかなるものであるかが示されています。「第一のポイント…エリシヤを知っている人々々々みな、本当に彼は聖なる人だ」と語りました。（七五頁）「第二のポイント…エリシヤは単なる神の人と呼ばれたのではなく、神の聖なる人と呼ばれたのであります。（七九～八〇頁）第三のポイントは、「彼はいつも神の聖なる人であったということですか。」（八一頁）……

「神の火と神の栄光」と題するメッセージもあります。その中で次のことが心に残ります。

「…神の火が天から下り、そして主の宮は神の栄光によって満ちあふれたのです。これが聖書のいうリバイバルという現象です。…私たちが神の栄光を、神の火を見るためには、私たちの側でしっかりとすべきことを果たさなければならないということです。……」（八九頁、九一頁）

（バックストン記念聖会委員会発行、一九九六年十一月二〇日初版）

●第12回 聖化大会教勢

昨年(1997年)の第12回東京大会の報告

昨年10月20日(月)と21日(火)、日本教育会館一ツ橋ホールに於てレス・ブランク博士を主講師としてお迎えし、幸いな集会をもつことがゆるされました。

教勢と2回の聖会のメッセージ概要を記しておきます。

月 日	集 会 名	集会人数
10月20日(月)	セミナー I	261
	レセプション	43
	講 演	273
	聖 会 I	326
10月21日(火)	女 性 大 会	423
	教 師 交 歓 会	44
	セ ミ ナ ー II	328
	神 学 生 交 歓 会	127
	聖 会 II	377

聖 会 I

レス・ブランク博士

「愛の神学の聖書的基盤」

国連の事務局長であったD・ハマーストロー氏は、この時代においてホーリネスの道は必ず行いの世界を通るものだ、と語った。私たちは聖書のメッセージを生きななければならない。パウロはロマ10、12章で深い愛のメッセージを語っている。彼は迫害者から宣教者となり、失われたイスラエルへの大きな重荷を持っていた。愛の神学のメッセージは失われた者へ届くものである。このことに関して二つのチャレンジを提起したい。

一、このメッセージの始まりは切り離された関係である。

愛のメッセージは聖なる神との関係について語っている。神との断絶された関係は御子キリストによって回復された(ヨハネ3章16節)。人の熱心さによつては実現せず、神の愛が恵みのゆえに、関係を回復させるのである。主は無条件の愛をもって、失われた者に豊かないのちを与えるために来られた。失われた者のために祈ろう。異教社会である日本の中で、たとえどんなに脅される反対されても、失われた者のために心を砕いた祈りを捧げるようになるまでは、このきよめのメッセージを伝えることはできない。

二、キリストの主権に身を委ねよ

救いの信仰を持ったというだけにとどまっていれば霊的幼児である。箴言三章五、六節にあるように、神の主権に身をゆだねる者が成熟した者である。私たちのからだを生きた供え物としてさげよと勧められているように、私のすべてをお取りください、あなたの願うことをしたい、あなたの力があれば私の生涯は変わります、という告白をしよう。私たちはこの世に習わず、むしろ造り変えられ、神の全き御意志を知るようにと求められている。心の内に愛の神学がみなぎっているならば、日本を描るがすわがなされるはずである。たとえクリスチャンが少数派であっても、主への熱情と献身が別の世界を開くのである。全き献身なしに、御旨を知り、みわざをなすことはできない。

ホーリネスのメッセージが神学の講演、書物で終わり、変化をもたらさないならば、全くむなし。ホーリネスは私たちに必ず変化をもたらす。

聖 会 II

レス・ブランク博士

「きよめられた生活の聖書的基盤」

今日は山上の説教からきよめの生活へと導かれた。キリストに仕える弟子たちに対して、マタイ五章10節-16節では外に向かつての聖い生き方が述べられている。ここから四つのチャレンジが与えられる。

一、キリストの主権の下に生きる

主の弟子たちがそうであったように、私たちもすべての人に受け入れられるわけではないので、気落ちしてしまいがち。だからこそ、主の力を必要としている。うちにおられる主はサタンよりも強い方であられる。たとえ気落ちするような状況が起こっても、福音に生き、きよめのメッセージが語っている通りに、主の愛を言い表わし続けるのである。

二、塩と光の原則を信じる

私たちの周りには味わいを失った人(挫折し、主の愛を受け止めていない人)がいるかもしれない。彼らは私たちの助けを必要としており、主は私たちが遣わしてくださるのだから、自信をもって愛を携えていこう。

また私たちは主の光を携えていくことができる。どんな人でも暗やみに入っていくには勇気が必要とする。しかし、どんなに大きな恐れを感じさせる暗やみであっても、私たちが進んで行かなければ、人々は道を見いだせないのである。勇気をもって闇へと進んで行こう。主は私たちが地の塩、世の光として用い、わざをなしてくださると信じていこう。

三、私たちの前の二つの道

私たちに、イエス・キリストの姿を反射できるものとなるか、反対にばやかしてしまうかの二つの道しかない。主に栄光の望みがあるのだから、互いに目を覚まし、主を反映する者とされることを信じていこう。

四、選択権はあなたにある

私たちのうちにキリストがいるならば、人々はその良いわざを見て、栄光を主に帰する。傲慢なままで遣わされることはできない。謙遜なクリスチャンとしての生き様の中でのみ、主をあらわしていくことが可能なのである。この自分を何とかしてくださいとウエスレーは折ったが、私たちは真剣にそう願っているであろうか。明確な決断を主に表わしていただきたい。(文責 寺村秀樹)

全国各地の聖化大会 あんない

発足10周年記念の—— 第11回東海聖化大会

- ◎テーマ きよめのリバイバルを求めて
- ◎講師 ハーバート・マゴニガル博士
- ◎日時 10月21日(水)
〈聖化セミナー〉午後2時30分
〈聖化大会〉午後7時
- ◎会場 福音センター
(イムマヌエル名古屋教会)
- ◎主催 東海聖化交友会
- ◎連絡先 電話 052-411-0687
FAX 052-413-2033

第24回 札幌聖会

- ◎テーマ 聖化と信仰の確立
—信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい—
コロサイ 2:7
- ◎日時 10月24日(土)午後7時、
25日(日)午前10時30分と午後2時
- ◎会場 札幌ナザレン教会
- ◎主催 札幌聖会委員会
- ◎連絡先 札幌羊ヶ丘教会
〒004-0846 札幌市清田区清田6条1丁目1-23
電話 011-883-3790 FAX 011-883-4974

第9回 九州聖化大会

- ◎テーマ 聖書のホーリネスに生きる
「神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。」
ローマ 12:1
- ◎講師 ハーバート・マゴニガル博士
- ◎日時 10月26日(月)午後7時聖化大会 I
27日(火)午前10時女性大会
午後2時セミナー
午後7時聖化大会 II
- ◎会場 日本ナザレン教団 熊本教会
熊本市九品寺1-7-11 TEL096-364-5593

岡山聖化大会

- ◎テーマ 聖化と宣教
- ◎日時 10月17日(土)午後2時
- ◎会場 日本ナザレン教団 岡山教会
- ◎講師 ハーバート・マゴニガル博士
- ◎大会会長 鈴木一郎先生(日本イエス・キリスト教団岡南教会牧師)
- ◎事務局 〒703-8275 岡山市門田屋敷一丁目3-36 日本イエス・キリスト教団岡南教会
電話 086-271-0588 FAX 086-271-5745

ジョン・ウェスレーに学ぶ会

第34回 公開講座聖会プログラム 10月23日(金)

午	1:30~ 2:00	礼拝	岩上輝雄 師
後	2:15~ 4:15	公開講座	ハーバート・マゴニガル博士 (通訳/鎌野善三 師) 「聖書のホーリネスの基礎について」
夜	6:30~ 8:30	聖会	ハーバート・マゴニガル博士 (通訳/鎌野善三 師) 「ホーリネスに生きる」

※会場は日本ナザレン教団大阪桃谷教会

久しぶりの発行となりましたが、格別に今秋の全国各地での聖化大会の祝福をお祈りいたします。
(係)

総務リポート

地
域
だ
よ
り